

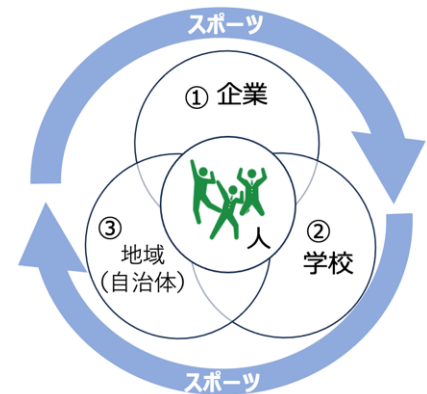
産業競争力懇談会（COCN）  
2024年度推進テーマ活動企画書

1. 推進テーマのタイトル

「スポーツの力を活用したウェルビーイング醸成戦略」

2. 提案の産業競争力強化上の効果

世界が経験しているテクノロジーや生活様式の急速な変化は、職場、学校、地域社会といった多様な組織に属する個人に新たな挑戦をもたらしている。一方、現代社会が抱えるストレス、健康問題、コミュニティの断絶は、人々のウェルビーイングに深刻な影響を及ぼしている。諸外国では、個人のウェルビーイングが醸成されることで、仕事や学業における生産性や創造性の向上、地域社会への積極的貢献や向社会行動の促進など、社会にとって有益な結果要因も報告され始めている。



企業では、近年、ESG（Environmental, Social and Governance）の観点からウェルビーイング経営についての関心が高まっており、企業イメージの向上や CSR であった「企業スポーツ」の役割が変わりつつある。学校においては、教育の一環として部活動におけるスポーツ活動が、青少年の心身の育成に貢献してきたが、現在、企業や地域のスポーツクラブなどとの連携も視野に入れた部活動の地域移行が検討されている。また、市民のウェルビーイングを向上させる観点から自治体によるスポーツ事業なども盛んになってきている。このような状況の中、単なる娯楽や運動を超えた「社会的装置としてのスポーツ」の役割が注目されている。スポーツには人々を結びつけ、健康を向上させ、身体的だけでなく心理的・社会的ウェルビーイングも促進する力が備わっている。

企業、学校、地域社会など、どの場所でウェルビーイングが醸成されようとも、個人のウェルビーイングは全ての活動に影響を与える。つまり、ウェルビーイングに着目した施策の強化は、それぞれの場所において非常に重要である。それらを複合的・効率的にまとめることで、生活のあらゆる場面でウェルビーイングを醸成できる仕組みがあれば、この世界はより素晴らしい場所になると考える。具体的には、ウェルビーイングが醸成されることで、人々が行うあらゆる活動の生産性が向上する。つまり、スポーツを活用し従業員のウェルビーイングが向上すれば、それぞれの企業の、ひいては産業界全体にとって有益であると言える。しかし、この重要な課題へのエビデンスにもとづく政策立案（EBPM: Evidence Based Policy Making）という観点では、スポーツを活用したウェルビーイング醸成戦略のエビデンスは極めて乏しい。そこでまずは企業、学校、地域の専門家から様々な意見を汲み取る機会の創出のため研究会を発足させることとした。今年度は研究会として活動を進め、2025年度からスポーツを活用したウェルビーイング醸成に必要な調査・提言を行なっていく。

3. 実現すべき目標とベンチマーク

EBPM の重要性はスポーツを活用したウェルビーイング醸成戦略においても重要である。実現すべき目標は、スポーツを活用したウェルビーイング醸成戦略に必要な課題を明確に整理し、政府・自治体・企業にとって有用な施策をまとめることである。まずは、多様な専門性を持つプロフェッショナルによ

る研究会を組織して問題点を整理し、その後推進テーマにおいて具体化を図る。

#### 4. 検討内容と構築すべきエコシステムの要素

様々な領域の専門性を持つ研究チームを組織し、実際にスポーツを活用している企業にも参画を働きかける。研究会がスタートしてからは、スポーツウェルビーイングの EBPM に関心がある自治体・学校教育関係者にも積極的に参画を打診する。

#### 5. 想定される課題、解決案、官民の分担

研究会からスタートするため、まずは **30 年後のウェルビーイングのビジョンを策定し、スポーツが貢献できうる課題を明確化する**。上図に対応させると以下のようなインナー&パートナーシップ戦略に関するあり方、またエビデンスを探索する必要性が考えられる。

##### 【インナー政策】

- ① 従業員のウェルビーイングを向上させるために企業スポーツはどのように活用されるべきか？
- ② 青少年のウェルビーイングを助長するスポーツ（部活）環境を規定する要員は何か？
- ③ 地域住民のウェルビーイングを向上させるスポーツタウンはどのような特徴を持つか？

##### 【パートナーシップ政策】

それぞれの領域を掛け合わせたパートナーシップ戦略の探索も必要となる。例えば、①x②では、青少年のウェルビーイングを向上させるスポーツ（部活）環境整備に企業スポーツはどのような貢献ができるか模索する必要がある。①x③では、企業による地域ウェルビーイングへのスポーツ投資はどのようなものが望ましいか、またそれらを換算するとどれほどの経済価値があるか探索する必要がある。また②x③では、ウェルビーイングを促進するスポーツタウンデザインのための学校施設の活用方法はどのようなものがあるか整理する必要がある。これらの課題を EBPM の観点から明確に整理し、報告書としてまとめる。

#### 6. 目標実現までのロードマップ

産学の専門家で編成した研究会をスタートさせる（2024 年 4 月）。中間報告（2024 年 9 月）までに 30 年後のスポーツウェルビーイングのビジョンを策定、最終報告（2025 年 1 月）までに、スポーツウェルビーイングに関連する EBPM に必要な課題を整理し報告書としてまとめる。

#### 7. プロジェクトの出口、その後の推進主体案

2025 年 3 月までには研究会メンバーならびに会員企業をさらに加えた「**スポーツウェルビーイング連絡会**」（仮名）を設立し、これがその後の推進主体となる。具体的な活動としては、EBPM に必要な実際の調査研究ならびに政策検討・提言、講演やセミナーなどの普及活動、企業におけるウェルビーイング活用方法に関する意見交換を行う。

#### 8. プロジェクトの推進体制と想定する主なメンバー

学：早稲田大学（リーダー）、順天堂大学、中京大学、びわこ成蹊スポーツ大学、ナンヤン工科大学  
産：三菱総合研究所（サブリーダー）、三菱電機、他（今後打診予定）